

地域とわたしたちの心意気をつたえる

Vol.
06

Total.80
2025
Autumn

TAKE
FREE

心意気通信

Kokoroiki-Tsushin



CONTENTS

心意気インタビュー
米沢稔りの会
マロン総選挙



▲1991年の雑誌に掲載された集合写真。通販カタログ掲載等、ほかの媒体でも全国的に知れ渡る機会になったとのこと。
▼東京のイベントに出店。



以前は会員の皆さんと芋煮会などの交流会をしていました。



2008年に皇居新嘗祭に県代表で献上。手作業で雑草を抜き、無農薬で育てました。お米一升分を一粒ずつ選別。



今に伝えるお米

上杉鷹山公の心を



コト / コト
心意気
インタビュー
株式会社
米沢稔りの会

毎年春に行う、鷹山公の遺徳を偲ぶ『鷹山公蒔田祭』と秋に行う『蒔田の抜き穂祭』の様子。

日本のソウルフード、お米。産地、味、品質、価格：世の中にはたくさんのお米があるお米があります。特に山形県は豊かな自然に恵まれており、日本有数の米どころです。

米沢稔りの会は、特別栽培米『上杉蒔田米』を生産しています。米沢稔りの会がうたう米沢藩第九代藩主上杉鷹山公（以下鷹山公）の心とは何か。どのような想いでお米を作っているのか。お米を通して伝えたいことをメンバーの大木保善さんにお伺いしました。

増収から無農薬栽培へ 研究する会へ

米沢稔りの会が発足したのは一九八一年。当初は名前はなく、地域の米農家たちが集まり、収穫量をどのように増やせるか追求する研究会から始まりました。反あたりの収穫量が全国でもトップクラスであった高畠町の佐竹政一氏に教えを受けます。

一九八七年、特別栽培米制度が始まり、減農薬や無農薬の栽培方法が広まっていきました。特別栽培米は農薬と化学肥料の使用量を通常行われている使用状況から五〇％以下に減らして栽培するお米のことです。また、かつては農協を通さなければ販売できなかったお米が、直接消費者へ販売できるようになりました。直にお客様とやり取りすることで次第に、「農薬を使用しないお米を食べたい」という声が届くようになります。

制度や消費者のニーズに合わせて会の方向性も「農薬や化学肥料をできるだけ使わない栽培方法を研究する会」と変化していきました。減農薬や有機肥料は収穫量がどうしても落ちてしまいます。それでも取り組んだのは、お客様のためにお米を作りたいという想いがあったからです。

そのような経緯で一九八八年、佐竹氏が命名した『稔りの会』という名前になりました。



紙マルチ方式の様子。1994年。



稲を育てるのではなく、 稲が自然に育つのを 手助けしている

無農薬の栽培方法にはいくつか種類があります。米沢稔りの会では、『紙マルチ方式』の田植えを採用しています。紙を漉きながら田植えをすると、苗の下に紙の層ができ、太陽光が当たらなくなるため雑草が生えません。この紙は約二か月で溶けてなくなるため、初期の雑草を抑えつつ、除草剤を使わずに無農薬で米づくりをすることができそうです。

ただ、紙マルチ専用の田植え機が必要で、重さ二〇キロ、長さ一五〇メートル巻の紙を使用するため、コストや手間もかかります。作業時間もかかり、丁寧に進める必要があります。

また、有機質肥料がお米の美味しさに大きな影響を与えているそうです。一般的には春先に肥料をたくさん与え、一気に稲を成長させる方法がとられています。米沢稔りの会では生育を見ながら必要な時に少しずつ肥料を与えます。「手間も労力もかかりますが、

稲の状態を見極めながら丁寧に育てることを大切にしています。毎日稲を眺めて、そろそろ肥料が切れてきたから少し足した方がいいかと判断します。」

稲が栄養を欲しているタイミングに合わせて施肥することで、過剰にならず、稲にとって最適な成長を促すそうです。「やはり稲も健康に育つことが大切です。私たちが稲を育てているのではなく、稲が自然に育つのを手助けしています。」

鷹山公が教えてくれた 『あきらめない心』が 込められた上杉籍田米

『籍田』とは古代中国の周の時代に行われた儀式で、君主が農耕の大切さを示すため、自ら田を踏み耕したことから始まったものです。鷹山公はその儀礼に倣い、困窮する農民を励ますために『籍田の礼』を行いました。お殿様自らが田んぼに入り、農民を支えたその姿勢と想いを、米沢稔りの会では大切に受け継いでいます。二〇二二年には、安心安全な米作り、鷹山公の思いを伝える活動、ウェブサイトによる情報発信や食育活動の取り組みが評価され、『米沢品質



AWARD』を受賞しました。『米沢品質AWARD』は、米沢品質向上運動の中から生まれる『挑戦と創造』に究め、特に秀でた米沢品質を有する商品やサービスなどに対する顕彰制度です。この受賞がきっかけで、リブランディングをすることになりました。

「ブランディングをしてパッケージを変えてから、魅力や特徴の説明がしやすくなりまして。」と話す大木さん。『あきらめない心が育つ』という馴染みある言葉から、米沢ならではの歴史やブランド価値、鷹山公の精神などと結びつけることで、商品の説得力や説明のしやすさが格段に高まったとのこと。『稔りの会』にとって大切なことは何か』を考える案出しを各グループに分かれて行ったところ、『あきらめないで頑張ろう』など共通するテーマが出てきたそうです。皆さん鷹山公の志を重ねな

がら取り組んでいたのだと思います。」

また、今までの他のメンバーがどんな想いでお米を作っているのかは、漠然としか分からないかったとのこと。「父がどんな気持ちで米作りをしてきたのかも、あまり知らなかったんです。ですが、ワークを通してみんな同じような気持ちで米作りをしているんだと気づけたんです。」それは大木さんにとってもお米への作りがいにつながりました。「この言葉は、私たち農家がどのような想いでお米を作っているから生まれたもので、単にとってつけたものではありません。」

せん。作り手の想いや米沢という土地の背景までと一緒に伝えられる。そうすることで、お米の価値をさらに広げていけると感じています。」

現在、ブランディングを進めて新たなスタートを切った米沢稔りの会。お米を食べてもらうだけでなく、『こういうお米を作りたい』という方と一緒に取り組める農家を増やすことも目標としているそうです。「米沢に来たいと考えている方にとって、新規就農がきっかけの一つになり、同じ気持ちで農業に取り組む仲間を増やしていきたいと考えています。」



ずっとお米と向き合ってきたメンバーの皆さん。普段なかなか想いを出す場面もなく、最初は戸惑いもあったそうです。



「未来を信じて生きぬく事をあきらめられない!」「あきらめるな! 鎌を取れ!」「誰もやらなくても自分は続けるという覚悟」「あきらめない心・折れない心」という言葉が並んでいます。

マロン 令和再 総選挙

令和元年に大いに盛り上がった「マロン総選挙」。あれから6年——前回の白熱した戦いには多くのご好評をいただき、再選挙決定！あなたの推しマロンに、清き一票を…！

投票方法 10月末日まで

①川島印刷facebook内、「マロン総選挙」の記事に各候補者の写真を掲載 ②次世代を任せたいマロンの写真に「いいね！」

投票はこちら



いや、うちのマロンこそ1番だから！

という飼い主の乱入もOK！コメント欄に写真を添えて、マイマロンを投稿してください。

景品



見事、総選挙で世界でひとつだけ！第1位に輝いた「マロンメモ帳」をプレゼント！マロンには、



選挙公約

- 1 積極財政によるマロンの幸せ実現
バラマキ反対、ドッグラン設備推進
- 2 毛皮族の暑い夏対策
地球温暖化防止として水遊び、エアコン必須、アイスクリーム
- 3 マロン散歩コースの治安維持
散歩は一日二回、ドライブも随時
- 4 ドッグフードの物価高騰対策
食う量半端ないから飼い主大変
- 5 おやつは裏金じゃない。



ドッグフードがなければ食べればいいじゃない

喜澤マロン



三度のメシより CIAOちゅ～る



選挙公約

- 1 三度のメシより「ちゅ～る」を食べられるような社会にします！
- 2 マロンに優しい我が家にズームイン！
- 3 午前7時から午後3時まで、ねんねします。
- 4 ちゅ～るやモンパチをもらうまでは頭すりすりして甘えます。
- 5 自然豊かな関根で、これからものびのび暮らします！



最後に、上杉藉田米を食べた方に何を感じて欲しいか伺いました。
「決してあきらめなかった鷹山公の想いは、いまの私たちにとって『米作りを絶対にあきらめない』という気持ちにつながっています。そして、そのお米を食べてくださる方々にも、『あきらめない心』を感じてもらい、日々の力にしていたければと願っています。」

鷹山公から受け継ぐ『あきらめない心』

そう話す大木さんからは、鷹山公から作り手、消費者へと精神が受け継がれていく想いが伝わってきます。
「お米はただの食べ物ではなく、日本人の精神そのもの。体だけでなく、心の栄養にもなるものだと思います。昔の『氣』という字に『米』が入っているように、古来より日本人の生活や文化の中心にあった米。その大切な食べ物を通して、少しでも明るい気持ちを広げ、日本を元気にしていきたい。そんな想いで、私たちは米作りに取り組んでいます。」

Infomation

直近のイベント

●藉田の抜き穂祭
10月8日(水)15:00~
米沢市御廟にある藉田の碑前の田んぼにて行われます。

お問合せ

TEL: 0238-21-8505
(平日9:00~12:00)



HP



Instagram

さらに詳しいインタビュー内容はこちら



約四〇年近くあきらめず
に続けてきた米沢稔りの会。
「どんな困難に陥っても、あきらめずに未来を信じてやり抜くことの大切さを世の中に伝えたい」という想いは、鷹山公が民に対して向けていたまなざしと重なり
ます。

「若い世代が受け継いでくれることがありがたい。会を作った良かった」と振り返っていたのが印象的でした。
「あきらめない心が育つ」ことを作り手が体現している上杉藉田米が、今後もどんどん広がっていくこと、さらにその精神に共鳴する作り手が増えていくことを願っています。

米沢稔りの会の心意気

あきらめない心が育つ



自力本願の地 米沢 オンラインショップ OPEN!

米沢藩 第九代藩主 上杉鷹山公の「なさねば成らぬ」の精神が宿る米沢。

自分の力を信じてあきらめずに実行するすべての皆さまを、私たち「自力本願の地 米沢」は応援しています。
このオンラインショップは、そんな“自力本願”の心意気を全国にお届けしたいという思いから立ち上げました。

米沢の精神が込められた商品が、皆さまの毎日にそっと寄り添い、
力を与える存在となれば嬉しいです。

各種
メディアで
話題



雑草コーラ

米沢に根づく雑草魂と、
あなたの決意を注ぐ一杯



刺繍アイテムなど

「なさねば成らぬ」の
精神を身近に

オンライン
ショップは
こちら



自力本願 米沢

川島印刷でも直接ご購入いただけます!



「自力本願の地
米沢」公式
ホームページ

新商品

最上川源流よねざわ紅花プロジェクト
紅花畑オーナー制度から生まれた!

よねざわ紅花 ジンジャー

見た目にも華やかで爽やかな一杯を
お楽しみいただけます♪



みんな
で摘んだ
紅花
です!



紅花の花びら

紅花の黄色色素を
抽出したシロップ

心意気通信 (旧かわしま通信)

Kokoroiki Tsushin

Vol.06 total.80

Autumn 2025 2025年10月発行

発行/株式会社 川島印刷

〒992-0021

山形県米沢市大字花沢 221-2

TEL / 0238-21-5511

FAX / 0238-21-5514

URL / <https://kawa-prt.com>

企画・制作/川島印刷 社外報委員会

鈴木貴美子、本間かりん、

小林侑輝、岡部智佳、沓澤貴志

取材協力/株式会社米沢穂りの会さま



心意気デザイン

Instagram

Facebook

※イベント出店のみ提供です。自力本願公式Instagramをお見逃しなく!